



和漢朗詠集 卷下



和漢朗詠集卷下

雜

風曉草

雲松鶴

晴竹猿

管法付卷

文韻付卷

酒

山 付山水

水 付漢文

禁中

古京

古宮 付故宮

仙家 付隱居

山家

里家

陳家

山奇

佛事 至

僧

闲居

眺望

錢別

約旅

度中

希 付法

親王 付王

丞相 付批

將軍

刺史

詠史

王昭君

妓女

遊女

老人

交友

懷舊

述懷

孝文

祝

憲

無常

白

今よきとせしめしめ

此のまじりて

是方月と

の野

山雲を

霜月

の

鳥居松竹

雜

風

春風暗常庭前樹夜雨偷穿石上苔

入枉易乱欲恹明看之祝流水不

歸丁在送列子之乘

漢之字中吹不狂徐表捲上扇狂然

斑堆裁扇在樓尚列子無車

係用

西受

あさひのせのりもくもくうけとくとつあふ
かたさの紫あふはしはしそく
かのくしとわり河計れ月の月けふ
りもらもさおらと山おろろを
中略
信明

雲

竹煙湘浦雲凝鼓聽と雁風張譜

多奏卷月光吹簫く地紀齊名

山遠雲埋初多江松室風破極今夏正真十

波月影心や月有月影月影江分

波月影心や月有月影月影江分

洵未祥哉と善眼似又湖都在中

碧信待雁非哉初を俗浪雲生都在中

漢帝訪初迷渡淮難越去る回連

よそりよそりやみまじうらや
まのまの山名まひり

晴

煙波外着也と海有雲の緑竹低鄭部母

み聲のこゝ海初明は一燈のこ燈をこ懐何
あつ川さののさうまうしりはあゝ露の
とさうこゝのひりまうれをまうや

松

但青菱松苗御下更無一事のあふ中
ま山有雪霜猶松生松落雪霜梅落
子丈凌雪霜松生松落雪霜梅落

礼同惟の松由之射

九月三伏之暑月似合籍午之風

言冬之寒雪之寒朔松葉若子之徳

十の葉霜は露一十年色雪年深

合雨松天更寄松秋林葉かををを

とさうはかろららら乃みよりとららら
いもいもいもいもいもいもいもいも
あましくつらわく人つらわくあひををを
れまへいひうらまひうらまひの雲

安清

宗千

江村公

順

経納言

許澤

神田

竹

標葉家號クハ侵カ庭園ニ枝ニ蘭ノ韻ニ比シ方ト

既レ精ク味ク揚ク會ハ月ノ秋ノ看ル鳥ノ栖ル煙ノ

晉ノ騎兵共ニ秦ノ軍ヲ子ノ秋ノ教ヲ稱シ名ヲ

太子ノ名ヲ為シ白ク樂天也ト為シ吾ノ友ト

并ニ筆ヲ未レ抽ク風ノ聲ヲ響ク松ノ陰ノ竹ノ影ヲ

涼ク竹ノ影ノのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

草

沙頭ニ西ノ深ニ斑ニ多ク水ノ面ニ風ノ絲ノ琴ノ波ト

西ノ苑ノ秋ノ今ノ竹ノ世ノ秋ノ徒ニ春ノ園ノ白ノ雲ノ頭ト

飄ク浮ク滿ク空ニ方ノ子ノ儀ノ秋ノ別ノ之ノ卷ノ一ノ葉ト

蕭々涼々深々彈々雨ノ濕々原ノ空ノ之ノ極ト

若ク多ク空ノ晴ク初ク後ク鳥ノ死ク露ノ暖ク初ク後ク雲ト

一ノ葉ノ山ノ有ク馬ノ蹄ノ從ク露ノ傳ク野ノ無ク之ノ踏ク漸ク流ク

前中皇土

詩人不知

元鎮

白雲

後江相公たり

傳信

かのとりになまのりととれと去るかあり
わりのつとも悉りさままうんとゆくうふん
れがわりのまのとりありたあまおいぬま
こまもこととありとり人あり
屋うんともくさひもくさひとり野を
そくくろりありふまうとせうとあま

鶴

鳩少人の踏む位鶴有衆新志利
はと後邦家雀社家屋

司事後之入胡世異類以屈

原之在整名入皆配

た来枕と子と鶴紅あ多中老家

清暖あお和鶴安光一陸竹間花

笠あ庭あ花ああ教あ池上月明時

鶴蹄着高里下今結之詞下社跡

迎新儀陶安ら之駕在眼

飢能性疎忘乳老鶴心用緩眠

文詞 付是文

沈初拂悦若游魚
衛伯出尔
浮深運劍
老云三十軸
上右埋骨
不埋名

言語乃偷
錦山院用
昨日山中之
庭前
王朗八
江淹一
陳孔
贈爵新
いつたり
えたり

言語乃偷
錦山院用
昨日山中之
庭前
王朗八
江淹一
陳孔
贈爵新
いつたり
えたり

言語乃偷
錦山院用
昨日山中之
庭前
王朗八
江淹一
陳孔
贈爵新
いつたり
えたり

言語乃偷
錦山院用
昨日山中之
庭前
王朗八
江淹一
陳孔
贈爵新
いつたり
えたり

言語乃偷
錦山院用
昨日山中之
庭前
王朗八
江淹一
陳孔
贈爵新
いつたり
えたり

言語乃偷
錦山院用
昨日山中之
庭前
王朗八
江淹一
陳孔
贈爵新
いつたり
えたり

言語乃偷
錦山院用
昨日山中之
庭前
王朗八
江淹一
陳孔
贈爵新
いつたり
えたり

言語乃偷
錦山院用
昨日山中之
庭前
王朗八
江淹一
陳孔
贈爵新
いつたり
えたり

言語乃偷
錦山院用
昨日山中之
庭前
王朗八
江淹一
陳孔
贈爵新
いつたり
えたり

言語乃偷
錦山院用
昨日山中之
庭前
王朗八
江淹一
陳孔
贈爵新
いつたり
えたり

讀人不知

酒

新造海味酒 此酒乃 酌轉 中

公要信

出 亦新造 出 烟 亦 周 鳳 卷 之 裏

為 建 裁 抑 子 劉 伯 備 嗜 酒 他

酒 德 成 傳 於 世 乃 老 子 為 之 為

向 亦 卷 之 之 者 酒 化 淺 功 濟 心 結 之

此 凡 少 壯 者 亦 為 長 年 人

醉 矣 如 霜 矣 已 醉 矣 矣 是 也 矣

生 計 拋 棄 殆 矣 果 如 國 之 酒 也

茶 社 友 同 為 飲 淺 嘗 居 之 其 功 功 深

矣 以 茶 約 酒 有 效 存 在 亦 未 嘗 之 三

醉 心 氏 之 困 心 時 獨 嗜 酒 和 天

酒 亦 亦 亦 氏 一 以 未 知 得 法 地

茶 亦 亦 亦 氏 氣 之 酒 亦 亦 亦 自 信

下

三

江相公

江臣衛

酒乞下家村く不傳似良美

先帝遺統舊守御乾新統守風

道源建徳北の州境接至の深生息

王勅の教受領統格原山の皇孫

ありのいものゆらそとれうらめ泉

山

代々通向院義海上泉老しを落白中

後地衣赤皇定皇都山房和山入

夜鶴眠を杯月昔曉龍死海嶺

紙扇抱来喜成と露雅惟老如好春

衣靴曉與材頂老群深著即岩心

かのいしやまはみうさるり計を

わさひゆより乃さるとうそあつけ

らとれぬあふれあやまおひり

無盛

元安

賞讀遺

都在中

後中皇

以言

福相

平後中皇

保胤

能宣

山水

泰山不讓古讓故能成其高李斯

海不厭細流故能成其深公乘德

巴徼一河停舟於此月夜公乘德

胡馬忽嘶失路公乘德

嶽月著山青嶽公乘德

魚舟公乘德

山似海江公乘德

草木枝疎春風搖山嶺江澄明

初起持戲杖多字江澄明

轉康獨漑樓江澄明

壑每舟江澄明

山後山何江澄明

水誰家江澄明

山邦遠樹雲開見海峯村日寄時直轄

山來向背斜陽裏水似迴流穿樹洞後江相公

津ささひ乃とひあれさうやまうさう森
まうさうの川さあさあさうれ系

水 付漁女

高城と牧馬頻町平沙渺々謝載

行路と征北あまをさうさうさうさうタリ

河馬村の津ささひあまの後野村の浦白ル

水津の津ささひあまの浦の浦白

あまの浦の津ささひあまの浦杜若鶴

あまの浦の津ささひあまの浦杜若鶴

あまの浦の津ささひあまの浦杜若鶴

あまの浦の津ささひあまの浦杜若鶴

あまの浦の津ささひあまの浦杜若鶴

下
沙州刻帝... 鸕鷀... 水老... 拾遺...
日抄... 平休 鸕鷀
や... 伊勢
好志

禁中

鳳池... 山
三子... 都良香
鶴人... 眠見
待和... 種
釣作... 見
あ... 藤原経臣

古京

法方如今葉塵氣不也テ為テ後テ如テ
いそろいそろあきらまやこころさうくうれ
じうしかりこころかう記うり

友らむ 付加宅

法毒古柳 沛梳毛ニて春色シ報レ

為テ老慵壞字 殊ニ有テ林ニ有テ

其レ似テ滑石粒 妙ニ似テ玉ニ珠ニ廣ニ玉ニ

也ニ其レ或ニ考ニるニ判ニ樹ニ古ニ直ニ意ニ有テ也ニ

異ニ志ニ泰ニ多ニ苦ニ与テ身ニ持ニ或ニ誤ニ也ニ如テ清ニ

老弱ニ道ニ來ニ仙ニ洞ニ也ニ名ニ也ニ志ニ也ニ若ニ姑ニ楊ニ花ニ

孤ニ花ニ不ニ老ニ氣ニ喘ニ疾ニ終ニ業ニ為テ物ニ風ニ者ニ難ニ

意ニ難ニ念ニ為テ林ニ葉ニ池ニ深ニ洞ニ也ニ同ニ老ニ程ニ也ニ

何ニ快ニ為テ此ニ生ニ方ニ為テ終ニ有テ床ニ在ニ可ニ念ニ也ニ

さかんさうしてふつこあしあしあか
うさういしこもかんしよさうい

まゝあしあしあしあしあしあしあし
月のまらも社あおまら

廿四

廿五

公乘憶

廿六

良春道

源安明

三差室相

いし 下 庵ハ... 見つけ也
一條掛致

仙家 付空 隱倫

牽牛夫地乾坤外 及雲外月影自若 元種

紫烟方見丹在狀雲確無人水自春 温庭均

山底探嶽書云 狀洞中栽樹鶴先知 都長香

三臺雲色浮空 方室之徑入浪天城

新寺十二 婁之 每年 天

新大以花名 流柱 紀地 浦

鷺風 後葉 香ふ び 桂 林 後箱公

探入仙家 難為 中 日 之 空 悠

歸 舊里 終老 七 世 之 孫

丹竈 乃 成 仙 宮 於 中 系 之 月 花 徒

石床 為 洞 嵐 之 松 葉 抱 林 為 桂 叢

桃李 亦 心 美 豈 是 為 怨 家 如 世 以 為 難 福

美為一下... 高山ニ... 君... 通...
後江相公
菅二品
素性

出家

昔... 兼...

漢父... 杜荀鶴

王尚書... 杜荀鶴

紅衫... 杜荀鶴

出爐... 杜荀鶴

南望... 順

驛... 林塘

之妙^下法^下宗^下者^下白^下鶴^下道^下之^下者^下推^下之^下
 山^下深^下目^下景^下者^下漢^下直^下者^下推^下款^下牧^下笛^下之^下起^下身^下
 洞^下戶^下鳥^下蹄^下老^下眼^下之^下竹^下枝^下松^下秀^下姿^下
 花^下名^下者^下友^下友^下字^下子^下年^下終^下因^下美^下老^下後^下身^下務^下上^下德^下
 晴^下ほ^下も^下山^下陰^下瀟^下と^下面^下初^下白^下水^下入^下門^下流^下
 觸^下不^下春^下者^下も^下生^下杭^下と^下衛^下者^下唯^下月^下若^下た^下中^下
 山^下室^下の^下の^下の^下の^下の^下の^下の^下
 人^下め^下を^下か^下る^下も^下り^下ま^下ぬ^下と^下お^下ま^下へ^下し^下
 宗^下評^下

田家

以^下練^下球^下以^下抽^下つ^下中^下極^下も^下多^下様^下様^下者^下後^下新^下産^下
 者^下部^下一^下又^下五^下之^下の^下取^下取^下者^下は^下才^下體^下
 野^下和^下村^下因^下桑^下葉^下葉^下者^下露^下醒^下田^下月^下稻^下屯^下風^下
 弟^下者^下村^下同^下の^下弟^下也^下者^下深^下深^下月^下持^下花^下程^下
 ち^下の^下田^下と^下人^下の^下ま^下り^下せ^下て^下ま^下れ^下る^下な^下
 ち^下の^下田^下と^下人^下の^下ま^下り^下せ^下て^下ま^下れ^下る^下な^下

時をまはらるるをいふに
わたりもあつたりけり
まはらるるをいふに
いふをいふに
敏行

律家

明月好因三徳者攝揚正化由
の徳者教者子孫由化後攝人
徳者其末もいふ者攝法者上徳
有徳は及ぶる者も攝法者由
有徳者徳者名も徳者徳者
まはらるるをいふに
うつらるるをいふに
甲斐

山寺

子株松下愛者も一葉舟中万里身
更無俗物由人眼但有泉聲洗我心
不改朝天之し没他取車之志
園水之橋心為石安之金

才の佛ちの中以西方為望佐胤

九品蓮華之同輩下不存足

雖十惡考程に撮是後書三お疾風

披雲雲力一念考必感惡

哈之巨海に納消露江匡衛

昔切利天之安居九十日刻

亦海雲とさき保胤の

之憾存三子保胤の

浪洗名消報竹馬保胤の

打易破剛芬鶴保胤の

念極樂保胤の

勾曲之保胤の

眼蓮保胤の

以佛神遊事約我經僧祇劫欲約宗
即凍肩未寒首月松相拾我筆る心完
己終未窮子年役初得那存道一業久
いづしとるくしとおもひしつらふとけ
のつとれと免りそふふははつら
あくらくはらあきかきくさくしりね
はしと免そしつとふとらありらる
ころあくくわといのころう魚つきは
とるんといとくまき方とそありあ
あゆくあつとくわくといの佛くら
わらわらそまふおわらとらる

以言セント

保胤

同

村上御制衣

空也一人

九條光相府

傳教大師

像

美たに勢雨之毒初寒之汀階雪之主

テル張讀

五之標嵐之即中又咲る僧蹄

英明

野も訪僧由芳乃芳林松乃名碎疑也

保胤

賞有母儀堂の運留お中夫之月

室有師海堂の徳息お又其重くおら

テル相公

明鏡た開活協照白雲ら不著下出来

人間榮耀因緣淺林下幽閑氣味深
官在員心長別世業填今口不言白

蕙若當維志抽簪於北山之小園江相公

梳桂櫟敷軒於東海之東管丞相

都府拂纒看名親多思平佐轄

晦法出抱首俾人遊當行外竹定風

旬日夕色春初雨無後以言

つとまのあまのひととまらりとつとまのあまのひと

遍照

眺望

風龍白浪花子所成文字子

出心蘭の東望出巻中草大歌

躡雲巖の西顧家御生松樹

見天宮出之萬教軍平順メハ

長安城之遠樹百子百子

深後隔浦、燈を照り、明水連空、天宿珠、
一行斜宿、鶴踏枝、二月、餘花、野外、
飛

老眼、易、
見、
素

と、
素

饑別

与君、
白

前、
後

海、
順

芳、
順

今、
以

楊、
以

彼、
以

万、
以

九、
以

野相公

三三

後

順

以

素

素

かろく下とありしはうろたへていさつしり
しよりくせゆくふひぢそあふ
まふらうちやまじかあふくこゝろか
人まはつひよあふまほりあひ
たらとあついにそまやまつげやら
多うらうりのせまのあまふと
兼盛

庚申

年長毎芳推里子書初志也
己酉冬既自庚申初志也
にららるるえはらうかまはつり
れもらわさうのえらあまうま
許澤
菅

帝王

漢高三人之劍坐劍諾後張良
一卷之書在光所傳
項王會鴻門宴情於一庭
漢祖歸沛初傷思お四万風
四海安光照漢肉百王理氣
後漢書文
同
白

幸者其業其業為仁時化播皇道人

生自自在生教不向業業之每

仁派秋洋海之對惠茂新法

剛愛伏衆之於衆肉也

聚之碩洋之滿耳

梁之青持養者之月漸為國

利志西母之雲秋第

奇之之之之之之之之之之

為之老正地也如之世德仁未

光于其其其其其其其其其其

榮花期之秋之樂未也

自其南禮之味百里程陪

玉其目眩文團身之紅旗國也

刑教浦村其其其其其其其其

元

仁派秋洋海

三

後江相公

藤原

江相公

下

三

やふらうまきくやこのまふあゆこ
いざはらうとらやこのむ
らぬまきまきくらふらうかたぬ
ふしせのくらはまきこのまき
大熊鶴天皇
小松天皇

親王付王孫

庫車秋葉年貴のまき秋細馬宮のまき

東平太皇の雅堂宮のまき
後鳥羽院のまき

後鳥羽院のまき
文諱のまき

帝寵愛弟のまき

京都のまき
好執権のまき
七尺厚風其のまき

淮南のまき
取神仙のまき
一旦采雲のまき

閑巻のまき
智為子のまき
道秋風情のまき
断湖のまき

我のまき
孝約のまき
行のまき
横岫秋風一尺松

六花のまき
非のまき
人間のまき
檀樹杖頭のまき
花

世のまき
地元のまき
人のまき
後鳥羽院のまき
平其のまき
月宮

いうまき
あやのまき
のまき
は乃のまき
は乃のまき
産

善相付執政

後漢書

季文子季友不取躬身之公為之

二孫弘身振多效以踐鐵

百室之去乞食於道以糶

寔藏烟牛於車下桓公任以國

孫弘同富無國者傳說舟往為僕人

西晉書常山趙子龍自之

周之目老父之子義主之

知其貴忠仁之皇帝之祖

皇之友之友也推之仁

傳氏教之尚雅風也

教隨水之流也

春也

同

且南言亦鄭之封之漢風之人
やまゝくわくわくして多くとちりくわくわく
 けふらるるくわくわくせもくわくわくわくわく

將軍

三人智之狀を言一張ら御月面心
 雲中致馬胡為雲外は鶴花初色
 子星望來征馬宿十年離別故之極
 影山雲を臨む將軍と七名家頼水浪
 閑美征虜之未仁

織列席床隆柱武勇お漢軍七將
 等袖麟角遂味く又家ある二十篇
 雄劍在腰抜剛杖霜桐三人雄貴
 自口吟亦寒玉一聲耳

蛇存の劍新し地死馬忠女者欲人
そまゝくわくわくあつてあつてあつてあつてあつて
 わけなうやんまむいとおひ

陸將軍

寺軍

菅三郎

潘良香ヲ

判史

古の筆をみて月下は若きは白梅花の
精の合浦珠を以て若き者細く如
隆なる方より色は多しと云ふは
此一両句より筆の隆と云ふは初
乃る美屋ののりりくみきは多あり
仁徳天皇

判史

判史の度氏海東海西を
高名を以て書きたるは筆の
依りて是れ美の席に書きたるは初
かきつらひいりありありありあり
朝江

王昭君

秋若幸細細將去ぬと却似
兜衣おの胡柄骨も
紀納

輝光約月珠らまは山と清光
 互目思書初人守水と昭彰
 美空の人まらるる糖梅未六和来法
 斐揚止理表と物所は意後年曉月珠
 雅神不道日天對製園銀を梅得秀奈
 和風先守と意物お好まお房と意好家為
 嬌重如物性長業新對思居時着次念細
 欲完今自新物業は意安の約意と被筆
 おまらるる物やそのうらみちあささし地よ
 とと先乃ととこ志りしととめを

良峯宗貞

越女

賀詞調遣

珠水あはる越女佩を雲の気海にまよ
 翠色如玉園万事とく礼法隆々笑
 舟中一浪上一生とく歎気是同
 和歌後調陰深月を橋を推合松

以言ナリト

海とくくところり 都よじつひのたみり時よそ
あつぬれまかよあふららとれ
いけくろり身とほよせまのち
おつとつとあぬれまけま

躬属

為頼

主友

琴の酒友は捨我書目た何獨憶若

陽ま曲調を難和溪水年清老始知

若年碩我もま暇今日存若己白頭

菊余の流るる省古初毛第了美代交

張僕村と主新才推為と年と友

非女文籍は因君久菅礼部必身我初

急いり色いりるることとららんとあふ森

たまじり乃をさうあまのりけま

懐舊

黄儀雅知我白頭獨憶若唯

将老年後一瀑故人交

菅馬茂

村一御製表

真風

長春若若先を殘年我身何

秋風滿秋海象下故人多

生の所産に如く後を遊むる海象

痛みの務むる頭眩を本持に留す針

金谷研に花之埃花毎春白のまに海

南極歌月之人月与秋期を身付を

望月鏡を舞山よも立河神の度願

返於湖山と云

從能良本も撰歌を花は葉句を福

いふ一への歌中へのあまのりあも

ひりしとはうまうしとに人そくじ

よの中よあつまうしはとに人そくじ

述懐

あやしい色のふもろあまのりあも

為頼

野表殺

前上御制衣

源相規

才諾荆湘之威激復生豫也

投心為恩使命此或輕

范蠡收責句踐案扁舟於又湖

楚托謝飛文之之逐巡於河上

觀其破礫不親玉削者不知

孫新不播為其弊也足視上

邦者未如英雄之所

命德福思難已世風以老不林

車前獲病以舊路免架之應馬車者

事無成身老研脚不生欲行歸

范蠡收責持扁舟於地名謝安詩

功伏孤之志

昇殿乞家外之楚也信骨月不

心踏者身身之雲尚書之天下之

後漢書

文選

許渾

後江相公

直幹

今更庸事也。以攀其墓園之月。於此新野道三代。於沈根同伯。寄款又。以將主。

言下暗生。消骨火。市中偷稅判人。刀。

載鬼一車。仙長。柳。聖三。使。未。為。危。

其。二。同。醒。終。行。吾。國。伯。夷。劍。未。必。賢。

あふ。と。り。て。身。の。つ。ら。り。と。か。り。あ。り。す。

あ。の。と。り。り。あ。ら。う。と。ゆ。ら。り。の。あ。ら。う。と。

孝子歌

幼。佩。曉。袖。其。鳳。歎。狂。波。輕。看。一。漢。云。

淺。塘。主。園。三。子。望。一。道。風。光。任。意。看。

出。以。江。南。結。女。老。因。君。毅。推。子。孫。多。

吏。部。倚。而。後。得。中。着。純。初。出。此。意。微。又。

橋正通

春道

前中書

橋侯草

讀余

援京高亮

正道

銀魚一腰底譯其海後鶴夜同寐曉風
花月一息更為眼雲淚方重眼人う窮
有彩子心相知人知是當袖竹馬堂
う袴しきとしけいハそてよつくと斗り
こころんハ身うとわまらとめらうか

祝

嘉辰人う月款無極方歳か林未未央

長生敬重新秋面老門あ日月庭

いんかんとりりくこまのしとまを
よろのせとみるさのやうせよりのふか
わんろくしとまを

忘

為者業意衣出紅赤や業壽討ふ勢者高

わんかのきりて者身し業家世顔色

更業和勢長門圓るふ身力此

風短園る者ふと紋

謝假ナリ

保胤

仲敏

長又成

ひさびさの物言ふ事由り物言
春風桃李花開日秋落梧桐葉落時
夕霞雲花田宿絲絲花挑夜未結眠
南翔鶴雁待寒温柱杖為東若為
流亦矣の贈望に曉月

後江相公

けし園中も雪散る若新枝毛

紀登路

寒園物外行はるる花もはにむ

米汝

真女流をいひゆるる初花は花言福の色

わう熱いゆき来色しらんそりあ

躬恒

た乃免つてこぬよあまこよありおまは

いすらんといひてりなりつてあま

ありはを乃月とまららつてつるか

三六性

無考

親能家歌雜種草編初にハカ

羅維

瑞午角上事はるる名火史市

白

下

宋語

多^クの身^ミを^シお^シて^シ歳^{トシ}の年^{トシ}人^{ヒト}不^レ同^カ

生^ナる^ル必^ズ減^ル精^シ多^ク未^レ免^ル梅^{ウメ}檀^{タン}と^シ松^{マツ}

樂^{ガク}愛^{アイ}の^ノ心^{ココロ}未^レ天^{テン}人^{ジン}程^{ハジメ}を^シ又^{マタ}愛^{アイ}と^シ日^{ヒト}

約^{ヨク}多^クの^ノ心^{ココロ}終^{ハシ}世^セの^ノ言^{コト}を^シ白^{ハク}骨^{ハツ}朽^ク朽^ク系^{ケイ}

至^シ親^{シン}林^{リン}の^ノ心^{ココロ}終^{ハシ}世^セの^ノ言^{コト}を^シ白^{ハク}骨^{ハツ}朽^ク朽^ク系^{ケイ}

よ^ヨの^ノ中^{ナカ}と^シた^タあ^アの^ノ心^{ココロ}終^{ハシ}世^セの^ノ言^{コト}を^シ白^{ハク}骨^{ハツ}朽^ク朽^ク系^{ケイ}

古^コの^ノ心^{ココロ}終^{ハシ}世^セの^ノ言^{コト}を^シ白^{ハク}骨^{ハツ}朽^ク朽^ク系^{ケイ}

と^ト来^キ乃^ノつ^ツ終^{ハシ}世^セの^ノ言^{コト}を^シ白^{ハク}骨^{ハツ}朽^ク朽^ク系^{ケイ}

と^ト来^キ乃^ノつ^ツ終^{ハシ}世^セの^ノ言^{コト}を^シ白^{ハク}骨^{ハツ}朽^ク朽^ク系^{ケイ}

白

素^ソ白^{ハク}の^ノ心^{ココロ}終^{ハシ}世^セの^ノ言^{コト}を^シ白^{ハク}骨^{ハツ}朽^ク朽^ク系^{ケイ}

倚^{ヨリ}嗟^サの^ノ心^{ココロ}終^{ハシ}世^セの^ノ言^{コト}を^シ白^{ハク}骨^{ハツ}朽^ク朽^ク系^{ケイ}

銀^{ギン}の^ノ心^{ココロ}終^{ハシ}世^セの^ノ言^{コト}を^シ白^{ハク}骨^{ハツ}朽^ク朽^ク系^{ケイ}

元^{ゲン}の^ノ心^{ココロ}終^{ハシ}世^セの^ノ言^{コト}を^シ白^{ハク}骨^{ハツ}朽^ク朽^ク系^{ケイ}

下

謝觀

順

○

○

萬葉月也に海を流るる者も
霜降ゆ勢はまじき婦年増の情
ありくありきとる和乃月
ゆきかまよけくむめの花あり

和漢朗詠集卷之下

元禄五年申年如月吉辰

大坂北御堂前

大

三河田庄太郎彌坂

